

日本気象学会 昭和56年秋季大会

会期：昭和56年12月1日（火）、2日（水）、3日（木）
会場：愛知県中小企業センター（名古屋市中村区名駅4丁目4番39号）

目次

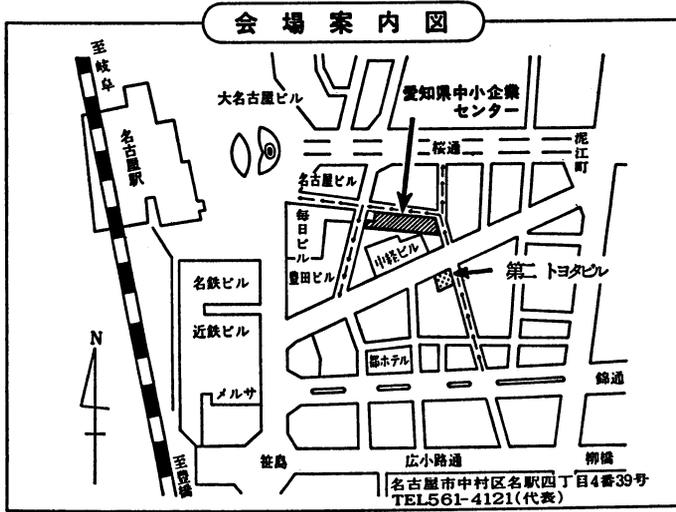
大会行事予定表	701
会場案内	702
研究発表内容一覧表	703
シンポジウム内容	703
研究発表題目	704～711

大会行事予定

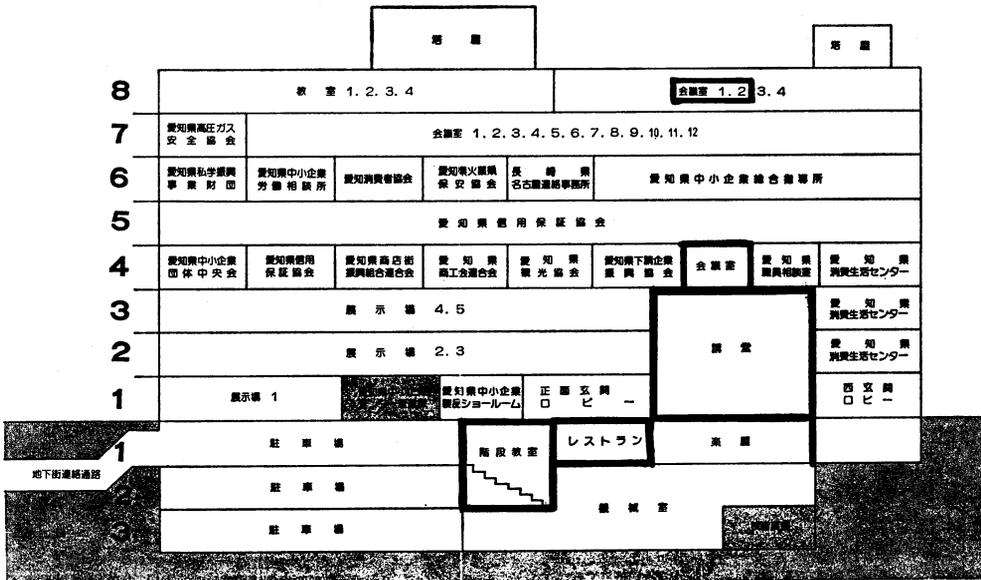
1. 会場：愛知県中小企業センター（Tel. 052-561-4121）
 第1会場（講堂，1・2・3階）
 第2会場（会議室，4階）
 第3会場（階段教室，地下1階）
 委員会・事務局（第1・第2会議室，8階）
2. 会期：12月1日（火）、2日（水）、3日（木）
3. 行事：

大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	12月1日（火）09：00～12：30
〃		13：30～17：30
大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	12月2日（水）09：00～12：30
理事長あいさつ，日本気象学会奨励金贈呈式	（第1会場）	13：30～14：00
シンポジウム	（第1会場）	14：00～17：00
懇親会	（第2トヨタビル8階）	17：30～
大会（研究発表）	（第1，2，3会場）	12月3日（木）09：00～12：30
〃		13：30～17：30

大会委員長 渡辺偉夫



愛知県中小企業センター階層図



昭和56年秋季大会

(): 講演番号, -- : 座長

		第 1 会 場	第 2 会 場	第 3 会 場
12月1日 (火)	09:00~ 12:30	気候・総観, 中小規模現象 (101~114) —青木 孝—	接地境界層 (201~216) —近藤純正—	大気電気 (301~309) —菊地勝弘— エアロゾル (I) (310~315) —石坂 隆—
	13:30~ 17:30	中小規模現象 (115~130) —掛橋 勇—	接地境界層 (217~233) —横山長之—	エアロゾル (II) (316~332) —伊藤朋之—
12月2日 (水)	09:00~ 12:30	熱帯気象・台風 (131~146) —和田美鈴—	局地風 (234~247) —宮田賢二—	放射 (333~348) —中沢高清—
	13:30~ 14:00 14:00~ 17:00	理事長あいさつ, 日本気象学 会奨励金贈呈式 シンポジウム		
12月3日 (木)	09:00~ 12:30	大気大循環 (147~161) —松野太郎—	エクマン層 (248~257) —花房龍男— 応用気象 (258~263) —樋口敬二—	雲物理 (349~364) —小野 晃—
	12:30~ 17:30	力学 (162~177) —宮原三郎—	大気汚染 (264~279) —鈴木 要—	大気化学 (365~374) —大喜多敏— 測器 (375~380) —田中 浩—

注) 大会参加費 会員 500円, 学生会員 300円, 一般 1,000円

シンポジウム「北陸豪雪」

- 日時 大会第2日 (12月2日)
- 会場 第1会場
- 司会 小野 晃 (名大・水圏研)
- 話題提供者
 - 豪雪のメカニズムについて
松本誠一 (気研)
コメンター 秋山孝子 (気研・予報)
 - 実況との対応からみた56豪雪と38豪雪の特徴について
石瀬宗弘 (金沢地台)
コメンター 内山文夫 (長野地台)
遠藤辰夫 (北大・理)
木村忠志 (防災センター豪雪実験所)
 - 降積雪情報システムと豪雪
- 総合討論司会 樋口敬二 (名大・水圏研)

講演発表者へのお知らせ

- 講演時間は: 質疑を含めて12分です。次のスケジュールを目標にしてください。
第1鈴 8分後 講演のまとめに入る。
第2鈴 10分後 講演終了
第3鈴 12分後 質疑終了
- 持ち時間 (12分) を超過した時は中止していただくことがあります。

研究発表題目

大会第1日(12月1日)09時00分~12時30分

第1会場 気候・総観気象, 中小規模現象

座長 青木 孝

101. 古山享嗣(気象協会・東海):地上天気図型の一分類法
102. 石丸雄吉(天気暦象研究所):循環予測法による天気暦と異常気候暦に就いて
103. 山元龍三郎(京大・理)・星合 誠(愛知学院大・教養):気候ノイズについて
104. 渡辺和夫(リモセンセンター):地域平均雲量の日変化特性(第2報)
105. 大井正一(埼玉大):成層圏天気図の解析(B1) 春三月
106. 荒井 康(気象庁・長期):対流圏の高度場についての統計解析
107. 鈴木昭夫(水戸地台)・菊地原英和(気大):異常豪雨を考慮した日降水量再現期間の推算
108. 宮本正明:日高山脈の千歳空港の風速度と低層 Wind Shear に及ぼす影響
109. 加藤内蔵進・浅井富雄(東大・海洋研):秋季日本海域における大気中の熱,水蒸気収支について—1978年10月の解析—
110. 藤井盛澄(大阪電通大):冬季,寒気南下に伴いカリブ海上層に発生するジェット流の解析
111. 竹内衛夫・内山徳栄(気研・予報):寒気団中の極気低気圧の形成(第2報)
112. 沢井哲滋(気研・予報):釧路の霧の基本的な特徴
113. 柴田清孝(気大):北海道東部の沿岸霧について
114. 小元敬男(大阪府大・農):台風に伴うたつ巻の研究(2).1979年9月4日三重県北部と名古屋市に発生したつ巻(2)

第2会場 接地境界層

座長 近藤 純正

201. 林 正康・横山長之(公資研):ソーダによる大気境界層の観測 その9
202. 戸矢時義(気研・応用)・内藤玄一(国立防災センター):フラックスメーターを用いた蒸発量の測定

203. 塚本 修・光田 寧(京大・防災研):熱電対乾湿計による水蒸気輸送量の直接測定—応答速度の補正—
204. 岩谷祥美(日大・生産工):空間構造をもった風速変動のシミュレーション
205. 加藤真規子(気研・物理):乱流拡散における拡散パラメータと乱流統計量(II)
206. 横山長之・林 正康・水野建樹・山本 晋(公資研):晴夜安定層中の乱流と波動の測定(3)
207. 早川誠而・坂上 務・元田雄二郎(九大・農):夜間の地面付近の冷却について
208. 後藤常男(緯度観測所):位置天文観測と境界層の構造(III)
209. 菊地時夫・千葉 修(高知大・理):気温の階段状変化について
210. 内藤玄一(国防防災センター):海上接地層における風ベクトルと気温の水平コヒーレンス
211. 伴野 登・山下喜弘(気研・衛星):気象観測鉄塔による気温の観測結果
212. 山下喜弘・伴野 登(気研・衛星)・花房龍男(気研・物理):筑波の接地気層の風速と気温鉛直分布
213. 千葉 修・菊地時夫(高知大・理):風速鉛直成分の高次相関量(主として偶数次相関量)の特性について
214. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理):強風の性質(III)
215. 甲斐憲次(筑波大・水理):台風15号通過時における乱流変動量および気象要素の変化について
216. 岩谷祥美(日大・生産工)・光田 寧・塚本 修(京大・防災研):多良間島で測定された強風の乱れの平均流方向の空間相関(その3)

第3会場 大気電気

座長 菊地 勝弘

301. 舟木教樹(埼玉大・工):落雷の前駆の電界変化—1980年夏期南関東における観測例—
302. 仲野 實・竹内利雄(名大・空電研)・M. BROOK・P. KREHBIEL(ニュー・メキシ

- コ大, U.S.A.): 冬雷対地放電の電気特性
303. 高木伸之・竹内利雄(名大・空電研): 冬の帰還雷撃の振動波形
304. 北川信一郎(埼玉大・工)・大橋正次郎(東電病院)・石川友衛(日大・医)・木下勝弘(相模工大)・鶴見策郎(東理大・理工)・高木勝正(電総研): 人体への落雷の特性と安全についての考え方
305. 牧野雅彦・小川俊雄(京大・理): 太陽活動に伴う大気の電氣的応答
306. 遊馬芳雄・菊地勝弘(北大・理): イオン捕捉による降水粒子帯電のモデル実験
307. 岩田 晃・高木増美(名大・空電研): 佐久島における大気導電率のパワースペクトル解析
308. 高木増美・近藤 豊(名大・空電研)・R. Reiter・H. Jäger (Inst. Atmos. Envir. Res., W. Germany): St. Helens 噴水前後における成層圏大気導電率の変化
309. 森田恭弘(名大・空電研)・J.M. Rosen・D.J. Hofman (ワイオミング大・物理天文学科): St.

Helens 山噴火後の成層圏イオンとエアロゾルの垂直分布

エアロゾル (I)

座長 石坂 隆

310. 伊藤朋之(気研・物理)・小野 晃(名大・水圏研)・岩井邦中(信大・教育): 南極大気中のエアロゾルの起源に関する研究(3)
311. 大喜多敏一(北大・工): 父島, 八丈島等におけるエアロゾルおよび関連ガスの合同調査結果 (I) エアロゾルのキャラクタリゼーションその他
312. 岡田菊夫(名大・水圏研): 水透析とシャドローイングによる個々のエアロゾルの性状に関する測定
313. 岡田菊夫(名大・水圏研): 都市大気中のエアロゾルの粒径分布とその変動
314. 森田恭弘・高木増美(名大・空電研): 対流圏エアロゾルの空間分布
315. 根本 修・矢野 直・小林隆久(気研・応用): 赤外分光計によるエアロゾルの定性分析

大会第1日(12月1日) 13時30分~17時30分

第1会場 中小規模現象

座長 掛橋 勇

115. 二宮洸三(気象庁・電計): Subsynoptic-scale 寒冷渦の予報実験
116. 秋山孝子(気研・予報) 梅雨期の長続きした Cb クラスターの発達過程
117. 榊原 均(気研・予報)・青柳二郎・松浦和夫(気研・衛星) 寒冷前線にともなう降水系の中小規模構造(第1報)
118. 宮本茂樹(松山地台): 低気圧に伴う線状エコーのメソ解析
119. 吉住禎夫(気大): 活発な対流雲の大規模な発達
120. 横山辰夫・田中 浩(名大・水圏研): 微気圧変動と降雨帯の関係(降雨セルのスケール)
121. 岡野 誠(東京管区): 冬季日本海におけるV字状雲の成因について
122. 黒坂裕之(筑波大・院): 冬季仙台北沖に出現する Cloud line
123. 穂積邦彦(斜重高校)・遠藤辰雄(北大・低温研)・

孫野長治(北大・理): 日本海収束雲の走向について

124. 高瀬邦夫(新潟地台): 季節風卓越時の降雪雲の特性
125. 内山文夫(長野地台): 長野県の季節風による降雪の統計的調査
126. 森川幹大・長谷川秀行・山岸照幸(気象衛星センター): 1981年8月上旬の北海道の大雨に関する調査
127. 宮本正明: 奥羽, 日高山脈の風下効果の天気図解析上に及ぼす影響
128. 堀江成人(北大・環境)・菊地勝弘・播磨屋敏生(北大・理): 北海道胆振地方の山岳性降雨(その3)
129. 菊地勝弘・播磨屋敏生(北大・理)・堀江成人(北大・環境): 昭和55年8月北海道南部における豪雨について
130. 加藤央之(北大・環境・院): 北海道における地上風の特徴——主成分分析法による解析(II)——

第2会場 接地境界層

座長 横山 長之

217. 石田廣史(神船大)・光田 寧(京大・防災研): AMTEX '74. 75 における大気乱流特性
218. 神井啓介(姫工大)・小森 悟・植田洋匡(国公研): Wall region での乱流輸送に及ぼす浮力効果
219. 植田洋匡・小森 悟(国公研): 気圏と水圏の界面での乱流輸送現象
220. 藤谷徳之助(気研・物理): 熱帯海洋上における乱流輸送過程の研究(MONEX)(4)
221. 近藤純正・三浦 章(東北大・理): 1979年5月の西太平洋の海面熱収支解析
222. 石井哲雄(麻布大)・近藤純正(東北大・理): 東支那海の海面熱収支の季節変化
223. 高原浩志・樋口敬二(名大・水圏研): 雪渓上を移動する気塊の変質について
224. 近藤純正・山沢弘実(東北大・理): 積雪面熱収支の基礎的研究
225. 石川信敬(北大・低温研)他: 南極昭和基地附近の海氷上熱収支観測(POLEX-South)
226. 和田 誠(極地研)・大畑哲夫(名大・水圏研)・川口貞男(極地研): 南極みずほ基地の接地気層の特性(I)
227. 大畑哲夫(名大・水圏研)・小林俊一・石川信敬(北大・低温研)・川口貞男(極地研): 南極みずほ基地で観測された低いカタバ風について
228. 小林俊一(北大・低温研)他: 低いカタバ風の発達過程における垂直風速の周期的変動(POLEX-South)
229. 小林俊一(北大・低温研)他: 低いカタバ風の発達過程における顕熱流束の特性(POLEX-South)
230. 真木太一(農技研・気象科): 防風網による冷害気象改善効果およびその乱流特性について
231. 大滝英治(岡山大・教養): 植物群落上の炭酸ガス輸送
232. 近藤純正・佐藤 威(東北大・理): 植物群落上および内部の風速分布
233. 米谷俊彦・瀬尾琢郎(岡山大・農生研): 植物群落上の乱流特性について(13)

第3会場 エアロゾル(II)

座長 伊藤 朋之

316. 村山信彦・根本 修・藤井幸雄(気研・応用)・樋口敬二(名大・水圏研): 黄砂 エアロゾルの赤

外分光測定による同定

317. 村山信彦・小林隆久・矢野 直(気研・応用)・森田恭弘(名大・空電研)・八十科洋(衛生センター): 黄砂エアロゾルの粒径分布と dustloading の推定
318. 石坂隆(名大・水圏研): 黄砂の水平分布とその性状
319. 桂川秀嗣(東邦大)・矢野 直(気研・応用): 黄砂時の大気エアロゾル粒子の個々の元素組成
320. 赤枝健治・小野 晃(名大・水圏研): 雲による Sulfate 粒子の成長過程
321. 成瀬 弘(気研・応用): 雲の周辺における雲核とエアロゾルの観測
322. 村上正隆・孫野長治(北大・環): 雪結晶によるエアロゾル捕捉実験(その2)——エアロゾル捕捉率に及ぼす電気的效果について——
323. 林田佐智子・岩坂泰信(名大・水圏研): 成層圏エアロゾルがオゾン濃度分布に与える影響(II)
324. 小林愛樹智・岩坂泰信(名大・水圏研): 成層圏エアロゾルのアンモニア化(I)
325. 岩坂泰信(名大・水圏研): 成層圏エアロゾル濃度の季節変化
326. 柴田 隆・山村英明・藤原玄夫・広野求和(九大・理): 1981月成層圏エアロゾルの急増——LIDAR 観測——
327. 平 隆介(福岡管区): セントヘレンズ火山噴火の大気混濁係数への影響について
328. 広野求和・藤原玄夫・柴田 隆(九大・理): 1980年5月セントヘレンズ爆発以後の成層圏エアロゾルの変動 I ライダー観測結果
329. 広野求和・久及宮成助(九大・理): 1980年5月セント・ヘレンズ爆発以後の成層圏エアロゾルの変動 II 二次元モデルによる考察
330. 近藤 豊・高木増美・岩田 晃(名大・空電研): 太陽吸光法による成層圏エアロゾル・オゾンの測定
331. 内野 修・前田三男・宮副 泰(九大・工)・柴田 隆・山村英明・藤原玄夫・広野求和(九大・理): ライダーで観測された成層圏オゾンとエアロゾルの関係について
332. 岩田 晃・高木増美・近藤 豊(名大・空電研): 大気組成レーザーダによる観測計画

大会第2日(12月2日)09時00分~12時30分

第1会場 熱帯気象・台風

座長 和田美鈴

131. 石島 英(琉大):地形による台風の変容
 132. 青木 孝(気研・予報):強い台風の区域別出現度数の経年変化
 133. 光田 寧(京大・防災研)・川平浩二(京大・理)・藤井 健(京産大・教養):標準計画 台風の通過にともなう地表風の子測(1)
 134. 岡村博文(気研・台風)・磯崎一郎(気研・海洋):SASS データによる台風域の海上風分布
 135. 杉浦 茂(気研・台風):Seasat の風による 台風の解析
 136. 井沢龍夫・岡村博文(気研・台風):Seasat/SMMR 資料による台風構造の解析
 137. 井沢龍夫・井上豊志郎(気研・台風):Tiros-N/TOVS 資料による台風構造の解析
 138. 岡林俊雄(気大):台風の上層雲の曲率・走向と台風の進行方向との関係について(第2報)
 139. 村松照男(気研・台風):台風眼の trochoidal(ループ)運動
 140. 小寺邦彦・村上勝人(気研・台風)・上滝 實(電波研):熱帯における積雲活動と雷活動
 141. 鈴木彌幸(気研・応用):Benard 対流細胞内の流れの向きについて
 142. 椎野純一(気研・台風):雨滴の成長を取り扱った積雲の数値実験——水滴の扱い方が結果に及ぼす影響について——
 143. 山岬正紀(気研・台風):台風モデルと積雲対流のパラメタリゼーション
 144. 丸山健人・常岡好枝(気研・予報):赤道西太平洋上空に見られる周期30~50日の衛星上層雲ベクトルの東西成分の振動
 145. 安成哲三(京大・東南アジア研):約40日周期のモンスーン変動と赤道・南北両半球域の地上気圧振動
 146. 安成哲三(京大・東南アジア研):インドネシア地域の降水量の経年変動と大気循環の変動

第2会場 局地風

座長 宮田賢二

234. 白崎航一(気大)・木村富士男・荒川正一(気研・応用):混合層予報方式を組込んだ局地循環数値

シミュレーション(I)

235. 木村富士男・荒川正一(気研・応用):局地循環モデルの改良——地表面熱収支過程の導入——
 236. 荒川正一・木村富士男(気研・応用):やまじ風の数値シミュレーション
 237. 近藤裕昭(公資研):斜面風といくつかのパラメータの関係について(その2)
 238. 石島 英(琉大):円錐地形による気流擾乱に関する数値実験
 239. 吉川友章(気研・応用):パーセル法による局地对流の数値シミュレーション
 240. 佐橋 謙(岡山大・教育):海陸風循環に及ぼす山脈の位置の影響——数値実験——
 241. 大河内康正(八代高専)・和方吉信(九大・理):九州北部における局地循環に及ぼす山岳地形の影響について
 242. 杉沢雅寿(法政大・院):妙高山東麓における気温と風の分布について
 243. 近藤純正(東北大・理)森 洋介(宮教大)・安田延壽・佐藤 威・萩野谷成徳・三浦 章・山沢弘実(東北大・理):山地における夜間冷却の予備的調査
 244. 渡辺 明(福島大):猪苗代湖北岸の局地循環に伴う傾圧場について
 245. 水間満郎(京大・原子炉):泉南地域における海陸風の観測
 246. 森 征洋(香川大・教育):日本各地の風の日変化の気候学的特性について(II)
 247. 吉野正敏:スリランカの南西季節風と局地風

第3会場 放射

座長 中沢高清

333. 田中正之・中島映至・山野 牧(東北大・理)・高村民雄(防衛大)・中西裕治(英弘精機):可搬型ポラー・ネフロメータの製作
 334. 和田 誠・山内 恭・前 晋爾・川口貞男・楠宏(極地研):マイクロ波放射計による伊勢湾付近の観測
 335. 田中信也(電気通信大):TIROS-N, NOAA 6による南極大気垂直温度分布の測定
 336. 山内 恭・川口貞男(極地研):南極みずほ基地における放射観測(POLEX-South) 4. 長波長放

射の特徴

337. 松原廣司(高層台)・大畑哲夫(名大・水圏研)・川口貞男(極地研):南極昭和基地における消散係数の測定(I)——サンフォトメータ法による——
338. 松原廣司(高層台)・大畑哲夫(名大・水圏研)・川口貞男(極地研):船上におけるサンフォトメータ法による消散係数の測定——東京から昭和基地まで——
339. 小林隆久・矢野直(気研・応用):エーロゾルの optical thickness と粒径分布の同時測定
340. 田中正之・中島映至・塩原匡貴(東北大・理):散乱光のデータを用いた long method について
341. 吉田作松・篠木誓一(気象協会・中央):日本における月平均法線面直達日射量の平年値およびその年々の変動係数のマップの作成
342. 吉田作松・篠木誓一(気象協会・中央):日本における月平均水平面散乱日射量・同直達日射量の平年値およびその年々の変動係数のマップの作成
343. 荒生公雄(長崎大・教育):日本の大気混濁の経年変化:1964~1979
344. 田中正之・石廣玉(東北大・理):大気成分の赤外透過関数の厳密計算とその表現
345. 高野精秀(東北大・理):氷晶による光の回折(II)
346. 太田幸雄(北大・工):夏季北極層雲の放射加熱冷却率
347. 佐藤隆夫(長崎大):大気中の第三次散乱光の計算結果(5)
348. 佐藤隆夫(長崎大):大気中の第三次散乱光の計算結果(6)

大会第3日(12月3日)09時00分~12時30分

第1会場 大気大循環

座長 松野太郎

147. 野田彰・時岡達心(気研・予報):大気大循環のエントロピー生成率(II)雲のある場合
148. 時岡達志・鬼頭昭雄(気研・予報):角運動量収支と大気大循環に関する数値実験
149. 鬼頭昭雄・時岡達志(気研・予報):大気大循環モデルにおける水文学的過程の影響
150. 谷貝勇・時岡達志(気研・予報):大循環モデルにおける雲と放射(II)
151. 谷貝勇・時岡達志(気研・予報):GCMのための放射モデルテスト(II)
152. 久保田効(気研・予報):北半球8日予想における雲の影響
153. 千葉長・木田秀次(気研・予報):夏の気大循環の数値実験—山無しの場合—
154. 増田耕一(東大・理):北半球大気中の非断熱加熱(1)
155. 戸松喜一(気研・予報):FGGE, レベル・IIIaデータによる1978年1月の解析(1)
156. 斎藤昭:下部成層圏のトラフおよびリッジの顕熱の輸送
157. 伊藤久徳(和歌山大・教育):プラネタリー波の振幅増大についての解析(その2)
158. 木田秀次(気研・予報):大気大循環による微量

組成とくにフロンガスの輸送の数値シミュレーション

159. 村松久史・牧野行雄・広田道夫(気研・高物):成層圏から対流圏へのオゾンの輸送の観測
160. 川平浩二(京大・理):プラネタリー波によるオゾン変動の研究(I)
161. 長谷部文雄(京大・理):全球規模におけるオゾン全量の経年変化

第2会場 エクマン層

座長 花房龍男

248. 蒲生稔・山本晋・横山長之(公資研):温度湿度の飛行機観測(その2)
249. 蒲生稔(公資研):混合層の季節変化(その3)
250. 笹野泰弘・竹内延夫(国公研):大型レーザーレーダーによる大気混合層発達過程の観測(II)
251. 花房龍男・藤谷徳之助(気研・物理):乱流統計量の高度と安定度による変化(II)
252. 山本晋・蒲生稔・横山長之(公資研):混合層上部および上層安定層の乱流特性について(その3)
253. 吉門洋・水野建樹・近藤裕昭(公資研):冬季の静夜安定層上部の構造の観測
254. 近藤純正(東北大・理):続・境界層の高さについての議論
255. 山中博(京都堀川高):亀岡盆地の霧

256. 真木雅之・播磨屋敏生・菊地勝弘(北大・理)・堀江成人(北大・環境):盆地における冷却過程
257. 太田幸雄(北大・工):夏季北極層雲の生成過程の数値実験
応用気象
 座長 樋口敬二
258. 高田政幸・小野田仁(気象庁・海上):沿岸海域波浪モデルの開発
259. 高田政幸・桜井邦雄・菊池哲也・竹内昌明・小野田仁・殿村清人(気象庁・海上):台風8013号による日本沿岸各地の波浪の推算—沿岸海域波浪モデルの検証—
260. 高橋浩一郎(早大)・田宮兵衛(気研・予報):季節変化する降水量時系列モデルによる水収支のシミュレーション
261. 高橋浩一郎(早大):水収支のシミュレーション
262. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋)・佐藤洋子(九大・工):震源周囲に分布する高温域の解析
263. 真鍋大覚(九大・工)・志賀正信(長崎海洋)・佐藤洋子(九大・工):大地並びに太平洋の震音の分析
- 第3会場 雲物理**
 座長 小野晃
349. 池辺幸正・中川良知・飯田孝夫・永井英男(名大・工):雲・霧粒の平均寿命の測定法
350. 岩井邦中(信州大・教育):浮遊する水滴の温度と大水滴の分裂について
351. 菊地勝弘(北大・理)・村上正隆(北大・環):雪結晶の中心核についての考察
352. 桜井兼市(北教大・旭川):黄砂の氷晶核としての能力
353. 高橋忠司・林佐衛子・新井君代(埼玉大・教育):氷晶核の性質が雪結晶の形に与える影響(Ⅰ)
354. 山崎利夫(浦和通信制高)・権田武彦(東理大・理工):凍結微水滴から成長する多面体氷晶の成長速度
355. 小池哲也・岡崎仁美・権田武彦(東理大・理工):低圧中で成長する単結晶氷晶の成長速度(Ⅰ)
356. 山下晃・井内久美子(大教大):ヘリウムガス中で成長する霜Ⅱ気泡の形態とその変化について
357. 播磨屋敏生(北大・理):霧の内部構造について
358. 梶川正弘(秋田大・教育):秋田県における雹について(Ⅱ),(雹の粒度分布)
359. 松尾敬世・佐粧純男(気研・物理):0°C高度より下の雪・みぞれ・雨の分布
360. 武田喬男・夏木尚平(名大・水圏研):気象衛星NOAA 6号とRHIレーダーによる降水雲の同時観測(Ⅱ)
361. 武田喬男・樋口克志・岩坂泰信・長屋勝博(名大・水圏研):巻層雲のミリ波レーダーによる観測
362. 樋口敬二・渡辺興亜・加藤喜久雄(名大・水圏研)・梶川正弘(秋田大・教育):秋田市における降雪の酸素同位体組成について
363. 樋口敬二・渡辺興亜・山本勝弘・伏見硯二・加藤喜久雄(名大・水圏研):日本の降雪の酸素同位体地域特性について
364. 藤田慎一・寺田信之・千秋鋭夫(電力中研):降水成分の時・空間的な濃度変動の特性について

大会第3日(12月3日) 13時30分~17時30分

第1会場 力学

- 座長 宮原三郎
162. 木村竜治・三沢信彦(東大・海洋研):角運動量蓄積の流体実験(第4報・完結)
163. 吉澤宣之(名大・水圏研):対流による回転流体中での渦形成
164. 阿部成雄・遠峰菊郎(防衛大):山を越える流れに対する一考察
165. 相原正彦(気研・台風):中規模山岳による定常波
166. 増田善信(気研・予報):山の高さを徐々に上げ
- た場合の大規模山岳の力学的効果
167. 中村一(東大・理):大規模山岳を通過する擾乱の振舞に関する数値実験(Ⅰ)
168. 余田成男(京大・理):地形による強制波と傾圧不安定波の相互使用について
169. 和方吉信(九大・理):非線型共鳴ロスビー波(その2)
170. 和方吉信(九大・理):強制傾圧不安定波について
171. 神沢博(極地研):変換されたオイラー方程式に基づくエネルギー論

172. 山中大学・田中 浩(名大・水圏研): 中層大気の波動と乱流(第3報)—Liouville-Green 近似による慣性内部重力波の理論—
173. 松野太郎(東大・理): 中層大気大循環と内部重力波の相互作用—準一次元モデル
174. 林 祥介・松野太郎(東大・理): 中間圏内部重力波の酸素再結合反応による増幅
175. 三角幸夫(京大・理): 惑星間空間磁場境界通過に対する地球大気の応答(3)
176. 森山 茂(日大・生産工): 火星の熱潮汐
177. 松田佳久(東京学芸大): 金星大気四日循環の生成と順圧不安定

第2会場 大気汚染

座長 鈴木 要

264. 村尾直人・大喜多敏一・太田幸雄(北大・工): 大雪山におけるオゾン濃度の測定
265. 村野健太郎・水落元之・金谷 健・鶴野伊津志・若松伸司・奥田典夫(国公研)・五井邦宏(埼玉県公害センター): 光化学スモッグ発生時における関東地方上空のエアロゾル中の硝酸塩, 硫酸塩濃度
266. 鶴野伊津志・若松伸司・鈴木 睦・村野健太郎・小川 靖・奥田典夫(国公研)・五井邦宏・昆野信也(埼玉公セ)・栗田秀実(長野衛公研)・古塩英世(川崎市公研)・須山芳明(神奈川公セ)・菊地 立(千葉県公研): 航空機による光化学汚染気塊の観測について~1981年7月16日, 17日の事例~
267. 矢野 直・佐藤純次・小林隆久・小出 孝(気研・応用)・富永 洋・今橋 強・立川 登(原研)・桂川秀嗣(東邦大): Activable Multi-Air Tracer 法(AMAT) [第2法]
268. 小林博和・西宮 昌・赤井幸夫・宮川 実(電力中研): レーザ・レーダを用いた移流汚染質の観測(I)
269. 植松孝彦(気象協会・北海道): 放射収支量の誤差がプルーム型拡散計算結果に及ぼす影響
270. 石崎健二(北大・工): 煙突から出た煙塊の円運動について
271. 安枝伸子・根本 茂(お茶大・理): 階段状地形の後流(Ⅲ)—後流中の拡散—
272. 伊藤昭三・溝尻純枝(阪府大・工)・河野 仁(大阪市): 面源及び体積源としての道路からの物質の拡散
173. 通地克三・四方 浩・市川陽一(電力中研): 排ガス拡散におよぼす地形影響の類形化(1)—2次元モデルによる実験的検討—
274. 市川陽一・四方 浩・通地克三(電力中研): 地形影響を考慮した気流及び排ガス拡散の数値モデル—速度ポテンシャル・流線空間での移流と拡散—
275. 藤部文昭(東大・海洋研): 東京付近の陸風と汚染物質の濃度変化
276. 「広域大気汚染の動態」観測グループ(発表者光本茂記(国公研)): 相模湾における海陸風と汚染物質の分布—1980年—航空機による風速分布の測定について—
277. 広域大気汚染の動態観測グループ(代表者, 浅井富雄(東大・海洋研)): 相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—1980年—: 風系の日変化
278. 「広域大気汚染の動態」観測グループ(代表者, 浅井富雄(東大・海洋研)): 相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—1980年—汚染物質の立体分布—
279. 「広域大気汚染の動態」観測グループ(代表者, 浅井富雄(東大・海洋研)): 相模湾域における海陸風と汚染物質の分布—1980年—湾上での1次および2次汚染物質濃度の日変化—

第3会場 大気化学

座長 大喜多 敏一

365. 近藤 豊・高木増美・岩田 晃・森田恭弘(名大・空電研): 対流圏・成層圏 NO_x 観測用高感度測定器
366. 岩坂泰信・増沢敏行・小林愛樹智・小野 晃・岡田菊夫(名大・水研): 対流圏・成層圏における[S₂O₂]の測定法(Ⅱ)
367. 井上久幸・葛城幸雄(気研・地球化学): 東京と筑波におけるトリチウム降下量
368. 杉村行勇・廣瀬勝己(気研・地球化学): 地表大気中のウラン含量と²³⁴U/²³⁸U 放射能比について
369. 廣瀬勝己・土器屋 由紀子・鈴木 款・杉村行勇(気研・地球化学): 筑波におけるエアロゾル化学組成に現われた St. Helens 山噴火の影響
370. 伏見克彦・杉村行勇(気研・地球化学): 低温濃縮, ガスクロマトグラフ・四重極質量分析計を用いる大気中のハロゲン化炭化水素の分析

371. 鈴木 睦・鶴野伊津志・若松伸司・奥田典夫(国公研)・昆野信也(埼玉県公セ)・古塩英世(川崎市公研): 環境大気中における平均 OH ラジカル濃度の推定
372. 村松久史・広田道夫・牧野行雄・佐々木徹(気研・高物): 成層圏汚染(オゾン層の破壊)に関する研究(5) 大気中におけるフロン11, フロン12および亜酸化窒素の濃度
373. 村松久史・広田道夫・牧野行雄(気研・高物): 成層圏汚染(オゾン層の破壊)に関する研究(6) 赤外干渉分光器による大気中微量成分の観測—その2—
374. 村松久史・牧野行雄・広田道夫(気研・高物): 成層圏汚染(オゾン層の破壊)に関する研究(その7) 一次元モデルによる微量成分の高度分布

測器

座長 田 中 浩

375. 西宮 昌・赤井幸夫・小林博和(電力中研): 音波探査による下層大気の観測(II)
376. 赤井幸夫・鈴木正勝・西宮 昌(電力中研): ソーダによる排煙上昇高さの観測
377. 柳沢善次・石原正仁(気研・台風): 可搬型ドップラーレーダについて
378. 青柳二郎(気研・衛星)・井部憲良(東海大): 測風レーダにおけるデータ処理について
379. 和田 誠(名大・水圏研, 現在極地研): pulse to pulse 法による降雪粒子の識別
380. 村林 成・岩坂泰信・寺井久慈(名大・水圏研)・山下喜弘(気研・衛星)・和田 誠・山内 恭(極地研)・武田喬男(名大・水圏研): $H_2O + h\nu$ ($Ly\alpha$) $\rightarrow OH^* + H$ を利用した対流圏上部及び成層圏の水蒸気測定法(II)

講演発表者へのお願い

1. スライドはマウントに番号をつけること, 上下を揃え, わかるようにしておくこと. 標準枚数は6~8枚です.
2. オーバーヘッド・プロジェクターはシンポジウムのみ利用可能です.

月例会「レーダ気象」のお知らせ

日 時 昭和56年12月9日(水) 10~16時

場 所 気象庁内東京管区気象台会議室

研究発表

1. レーダ協同調査に関する調査研究
 - (1) 降水調査 (fr の間類)

(2) 短時間降水予報におけるレーダの利用の調査

2. その他

連絡先 〒305 茨城県筑波郡谷田部町長峰1-1

気象研究所 柳 沢 善 次

電話 0298-51-7111 内線 525